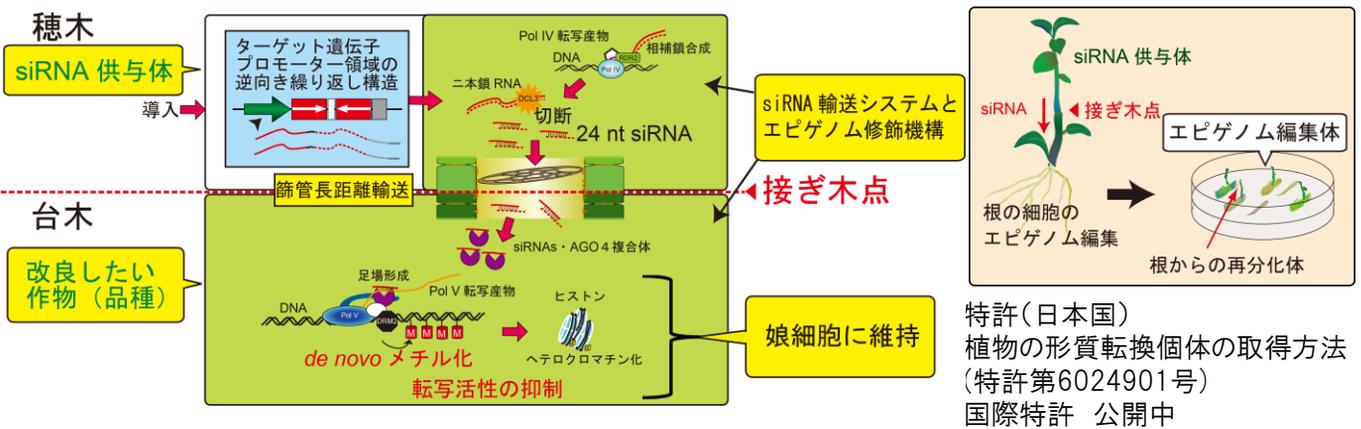


純国産の新育種法 接ぎ木によるエピゲノム編集

弘前大学 農学生命科学部

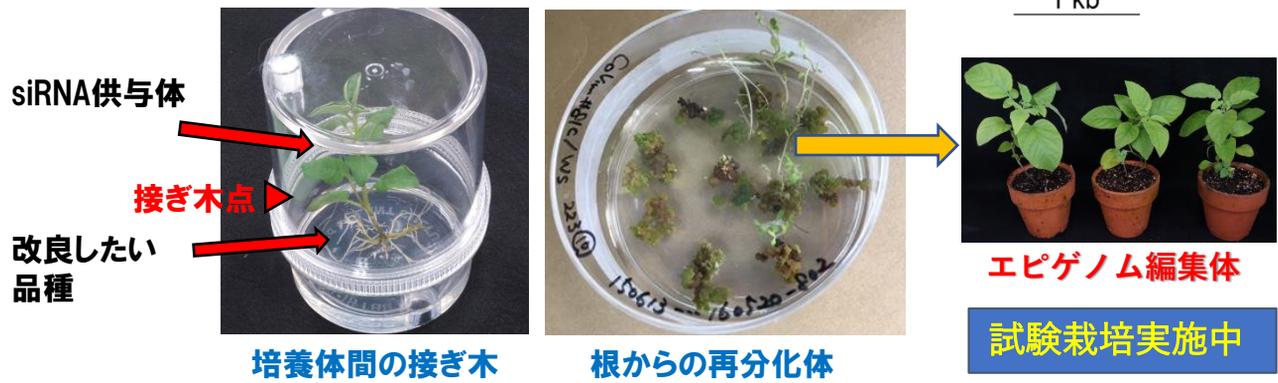
植物においては一部のRNAが全身に輸送され、それが輸送先で機能することで器官間の調和的生长が実行されています。また、小さなRNAが特定のDNA領域のエピゲノム修飾状態を変えて塩基配列を変えずに遺伝子の働きを制御するという分子機構があります。そこで、穂木に人工的に特定遺伝子領域の小RNAを産生させ、台木を改良したい品種として接ぎ木をすると、台木の一部から目標とした特定（標的）遺伝子のエピゲノム編集体が獲得されます。この新育種法によるジャガイモの品種改良のプロジェクト研究が進められています。



ジャガイモのエピゲノム編集体作出

標的領域のsiRNA産生用コンストラクト

伴細胞特異的強力プロモーターより多くのsiRNAを接ぎ木相手に送る。



本研究は「平成30年度イノベーション創出強化研究推進事業」にて実施している。

問い合わせ先 弘前大学農学生命科学部イノベーション創出強化研究推進事業担当
 nousei_inv@hirosaki-u.ac.jp